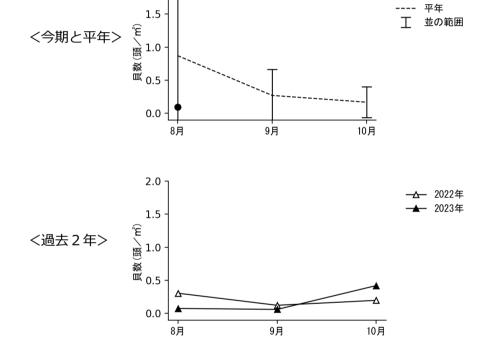
1714 7 1/2	3 73 3 1k			
作物	水稲(2期)		地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリン:	ゴガイ		
調査結果	8 月の発生量(平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	7		
	9 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(ゝ)		
田本灶田				

2024年

調査結果

貝数の推移



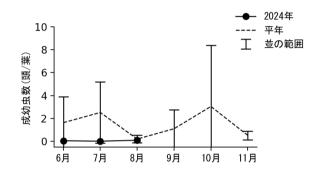
・発生ほ場率37.5% (平年:59.9%)

2.0 -

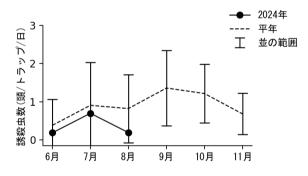
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・取水口に侵入防止網(目合6~10mm程度)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイ	ロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量(平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	7		west and
3 12	9 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(♪)		

葉当たり成幼虫数の推移(今期と平年)

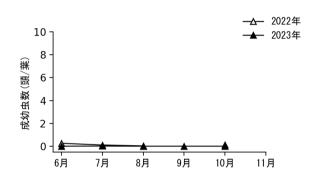


トラップ当たり誘殺虫数の推移(今期と平年)

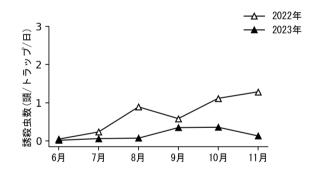


・発生施設率20.0% (平年: 43.6%)

葉当たり成幼虫数の推移(過去2年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移(過去2年)



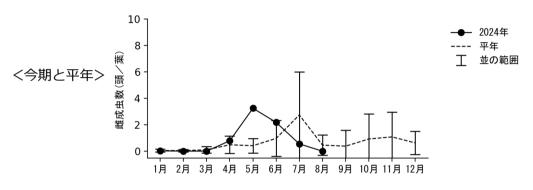
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

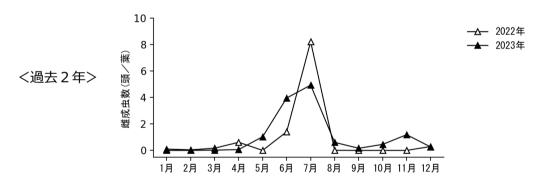


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② ハダ二類			1
調査結果	8 月の発生量(平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	\rightarrow		シュレイツメハダニ
	9 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		

雌成虫数の推移





- ・発生種:シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年:38.2%)

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける

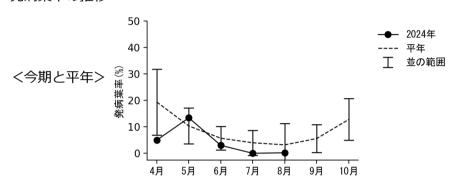


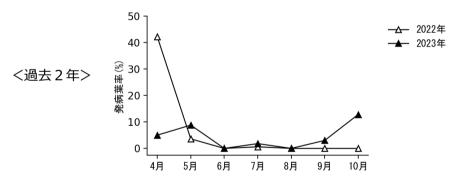
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	8 月の発生量(平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	7		- L
	9 月の発生量(平年比)	並	-	
	予報の根拠	平年の発生量の推移(♪)		

発病葉率の推移



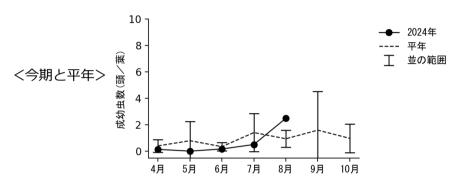


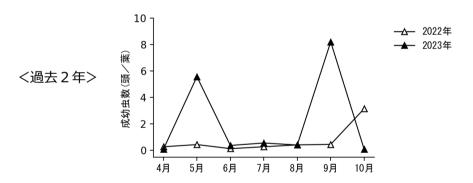
・発生ほ場率20.0% (平年:19.0%)

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミト	ドリヒメヨコバイ		
調査結果	8 月の発生量(平年比)	やや多	1	
予報	8 月からの増減傾向	7	1	成虫
	9 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(♪)		

成幼虫数の推移





・発生ほ場率80.0% (平年:90.5%)

防除のポイント

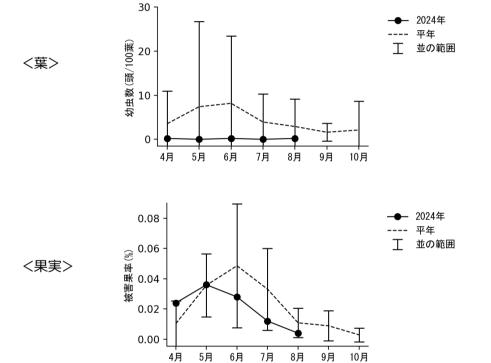
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。





作物	オクラ		地域	八重山群島
1 F 199	7177		10130	八重山竹岛
病害虫名	③ チョウ目幼!	虫	600	
調査結果	8 月の発生量(平年比)	並		The same of the sa
予報	8 月からの増減傾向	\rightarrow		オオタバコガ
	9 月の発生量(平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移(→)		

今期と平年の発生推移



- ・発生種:オオタバコガ
- ・発生ほ場率20.0% (平年:14.3%)

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。











